平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果
ー分析から見えてきた成果・課題と今後の取組についてー

区　　名　　鶴見区

学 校 名　　鶴見小学校

学校長名　　古川　旬

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年４月17日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

(1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
(2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
(3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

・主として「知識」に関する問題（Ａ問題）
・主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）
※ 理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・鶴見小学校では、第６学年　７６名

学校名　　鶴見小学校

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数は、全国平均を上回る結果となった。特に算数はAで６．５ポイント、Bで５．５ポイント全国平均を上回っている。理科は、全国平均を下回ったが、大阪市の平均を4ポイント上回る結果となった。
無回答率は、国語Aのみ全国平均を下回る結果となったが、そのほかの教科では上回った。特に算数Bは３．５ポイント上回る結果となっている。
生活面（学校・家庭）や学習についての質問には、全体的に肯定的な意見が多かったが、全国平均と比べて「当てはまる」の割合が少なく、「どちらかといえば当てはまる」の割合が高かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］　全体的に正答率が高かった。特に「話すこと・聞くこと」の分野はA・Bとも全国平均より４ポイント前後上回っている。毎日朝に設定している「読書タイム」など、書物に親しむ環境を整えてきた結果が、読解力の向上につながったのではないかと考える。
逆に、「書くこと」は全国平均を下回った。資料を整理し、必要な内容をまとめて文章に表現する作業に課題が見られた。「学校力ベースUP事業」を基に、今まで以上にアクティブラーニングを主においた学習展開の研究と児童への提供を行い、豊かに表現できる力を児童につけさせたい。

［算数］　A問題の「数量関係」の分野が全国平均より13ポイント高くなっている。習熟度別少人数学習およびチームティーチング学習を3年生からほぼすべての単元で導入し、基礎基本の定着を図った成果が表れているものと考える。その他すべての分野について定着を図ることができたが、B問題の３－（１）の正答率が低かった。グラフを多面的に読み取り、「気づき」が生まれるような演習が今後必要だと考える。

［理科］　どの分野も平均的に定着が図れているが、「地球」分野のさらなる定着が必要と考える。「流れる水のはたらき」の単元を基にした問題では、基礎用語などの知識は十分理解しているが、実験に対する考察をまとめる問題で誤答が多く見られた。実験・観察のめあてを正しく読み取り、結果資料を効果的に活用したまとめができるよう、作業の機会を多くもつようにしていきたい。

質問紙調査より

・「学校のきまりを守っていますか」に対し、肯定的な意見が96ポイントに達している。安全面からの啓発を続けていることが、児童の意識の高まりにつながっていると考える。
・地域の人とのかかわりを授業の中で感じた児童の割合が少なかった。ゲストティーチャーによる授業は各学年行っているが、よりよい工夫が必要と考える。
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な意見が96ポイントとなっており、意識の高さがうかがえる。その反面、将来の夢をもつことができていない児童の割合が11ポイントだった。キャリア教育の研究を進め、将来のビジョンをもつきっかけを与えていくようにしたい。

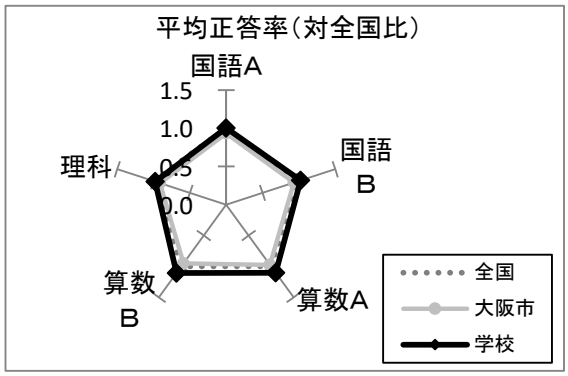
今後の取組(アクションプラン)

習熟度別少人数学習の授業形態が定着していることをはじめ、学習の基礎・基本の定着に関する手立ては十分組織的に進めることができていると考える。今後はアクティブラーニングの手法を研究していく必要がある。児童が学習課題に対し、能動的に学んでいくために、課題設定、資料収集、分析、整理を行い、適切な文章で表現する機会をつくり、その活動から認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成が図られるよう、授業計画を密に行っていきたい。

【 全体の概要 】

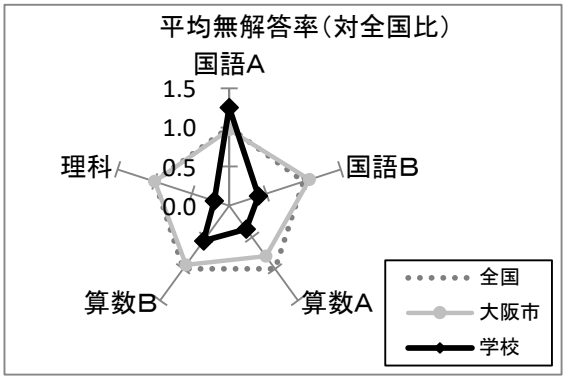
平均正答率（%）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	71	56	70	57	59
大阪市	66	51	62	49	55
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3



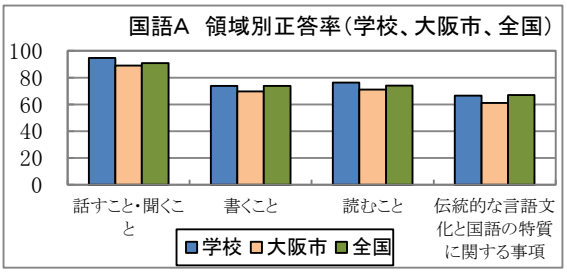
平均無解答率（%）

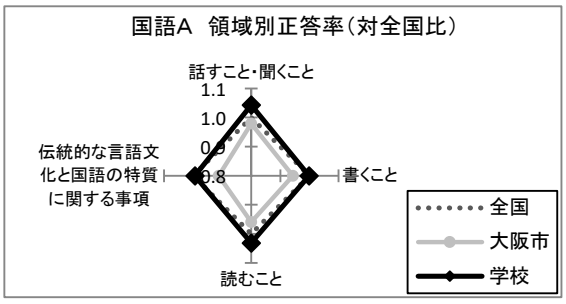
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	4.4	1.5	0.9	4.4	0.2
大阪市	3.4	4.1	2.0	7.4	1.2
全国	3.5	3.8	2.5	7.9	1.2



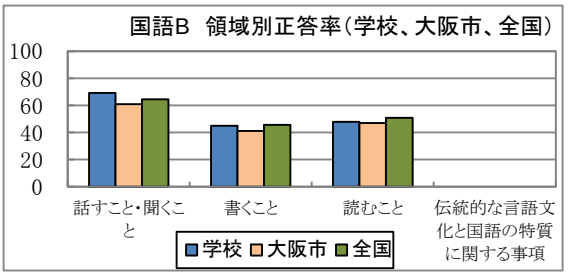
【 国 語 】

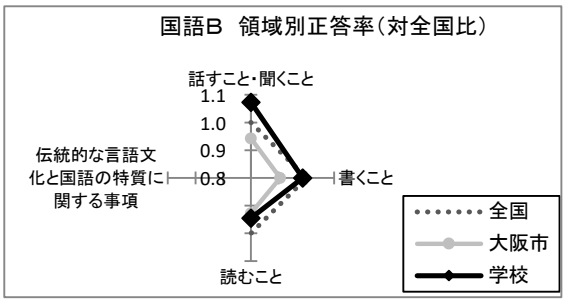
A 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	94.7	88.9	90.8
	書くこと	1	73.7	69.6	73.8
	読むこと	2	76.3	71.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	66.6	61.1	67.0





B 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.3	60.9	64.6
	書くこと	5	45.0	41.3	45.6
	読むこと	2	48.0	47.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—

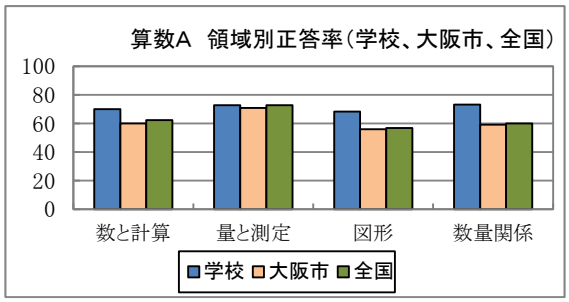


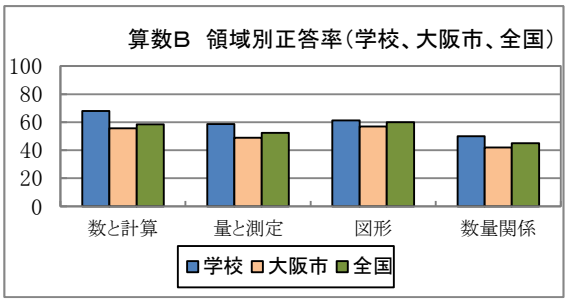


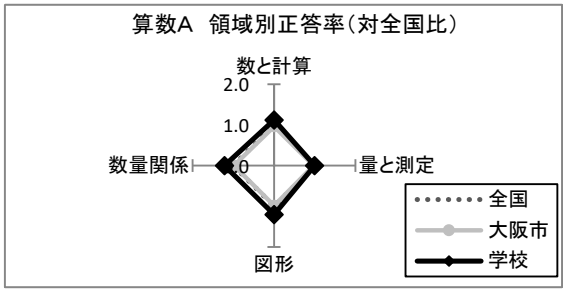
【 算 数 】

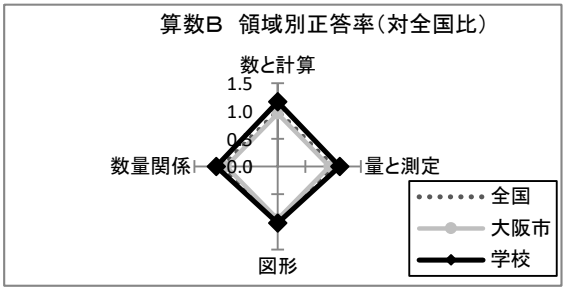
A 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	5	70.0	60.0	62.3
	量と測定	4	72.7	70.9	72.7
	図形	3	68.4	56.0	56.9
	数量関係	5	73.2	59.2	60.1

B 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	6	68.0	55.6	58.4
	量と測定	4	58.6	49.0	52.4
	図形	2	61.2	57.0	59.9
	数量関係	5	50.0	41.9	45.1



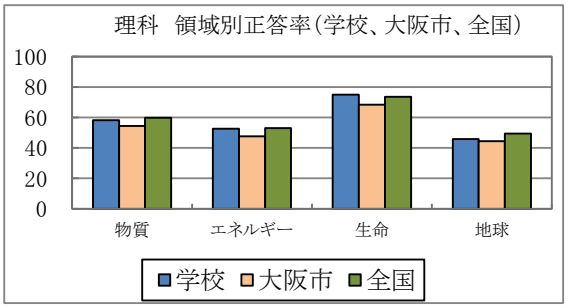


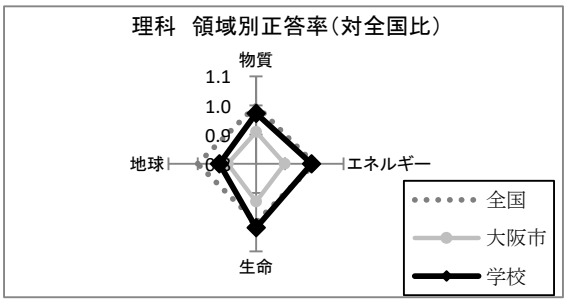




【 理 科 】

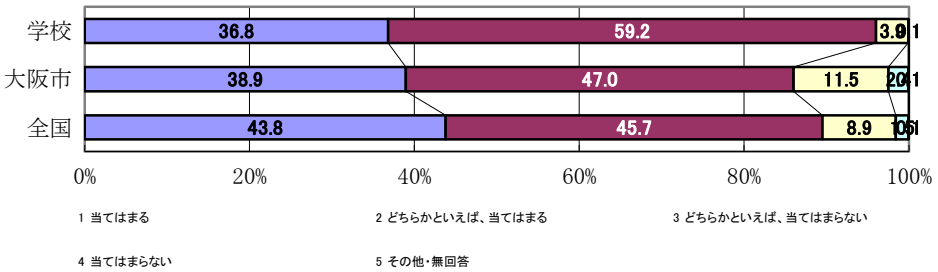
学習指導要領の領域等		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A区分	物質	4	58.2	54.4	59.8
	エネルギー	4	52.6	47.7	53.1
B区分	生命	4	75.0	68.4	73.6
	地球	6	45.8	44.4	49.5



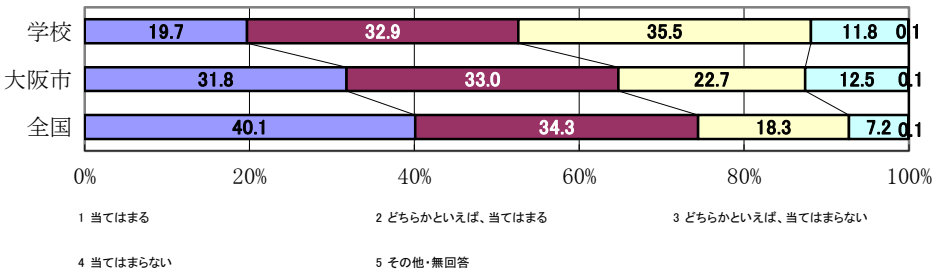


児童質問紙より

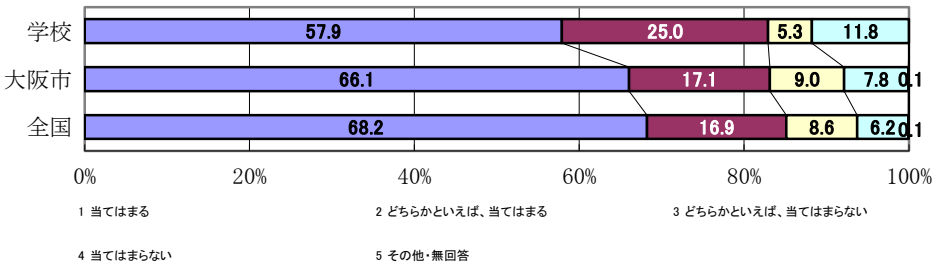
質問番号	質問事項
4	学校のきまりを守っていますか



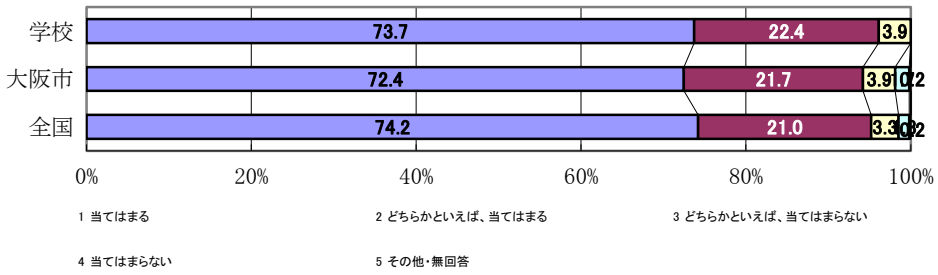
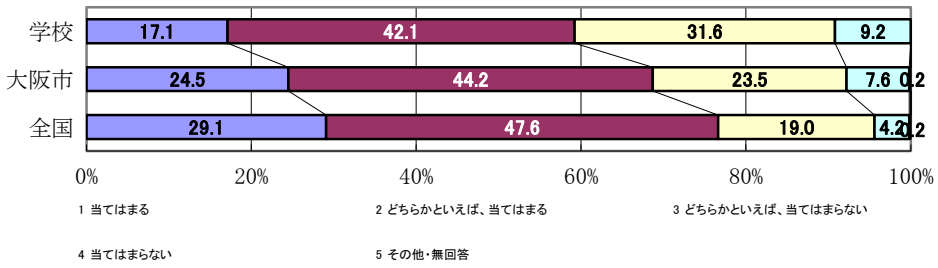
19	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会があったと思いますか



3	将来の夢や目標を持っていますか



6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか



55	5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか